

5 西 三 河 地 区

〔 岡崎市、碧南市、刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、みよし市、幸田町 〕

【地区の概況】

県土の中央に位置し、矢作川流域に広がる西三河地区は、トヨタ自動車(株)の本社や研究開発・生産拠点のほか、関連するサプライヤー企業が多く立地する世界的な自動車産業の拠点であり、我が国の産業発展をリードしてきました。現在、自動車産業のさらなる発展をめざし、最先端の研究開発・生産機能の集積・強化に取り組んでいます。

製造業が集積する当地区では、県外からの若年男性の転入は多くなっていますが、その他の年齢層の男性や女性は転出超過となっています。

製造業が集積している一方で、地区南部の大規模な土地利用型の農業をはじめ、豊かな森林や三河湾の海洋資源などを背景として農林水産業も盛んな地域でもあります。

また、最先端のモノづくりから瓦産業、醸造業などの産業観光資源をはじめ、岡崎城や山車文楽などの歴史的・文化的資源、農山村や三河湾などの豊かな自然に恵まれた地区でもあります。



項目	数値	県内シェア
人口（2022年）	1,603,898人	21.4%
面積（2020年）	1,758.19 km ²	34.0%
人口密度	912.2人/km ²	—
農業（2020年）	533億円	18.4%
工業（2019年）	272,312億円	56.8%
商業（2015年） ※卸売業を除く	15,984億円	18.9%

1 人口

西三河地区の2020年の人口は1,613,012人(2010年比103.0%)で、県内シェアは21.4%となっています。

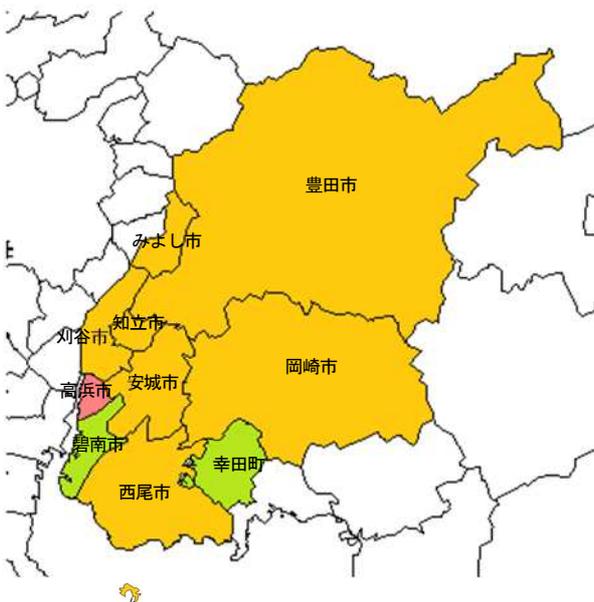
国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2045年の地区内の人口は1,571,107人(2020年比97.4%)と緩やかに減少すると見込まれています。市町別に見ると、高浜市(同年比112.6%)、幸田町(同年比101.3%)で増加することが見込まれています。

また、2045年時点の高齢化率は、2020年比で+8.2ポイントとなっており、県平均(+7.7ポイント)より増加幅が大きく、みよし市(+12.7ポイント)、碧南市(+9.2ポイント)で大きく上昇することが見込まれています。

■総人口の推移

◇2025年(2020年を100とした比較)

◇2045年(2020年を100とした比較)

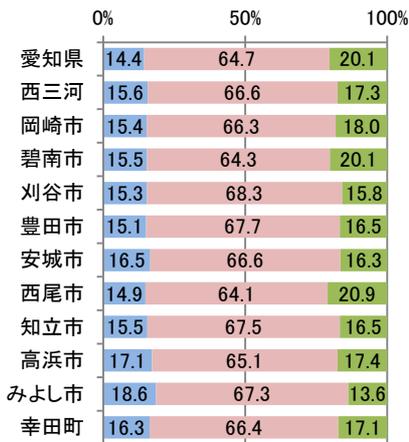


	総人口(人)					増減率	
	2010年	2015年	2020年	2025年	2045年	2020年→2025年	2020年→2045年
愛知県	7,410,719	7,483,128	7,542,415	7,455,615	6,899,465	98.8%	91.5%
西三河	1,566,085	1,594,930	1,613,012	1,628,424	1,571,107	101.0%	97.4%
岡崎市	372,357	381,051	384,654	390,594	378,254	101.5%	98.3%
碧南市	72,018	71,346	72,458	69,130	61,718	95.4%	85.2%
刈谷市	145,781	149,765	153,834	154,624	151,521	100.5%	98.5%
豊田市	421,487	422,542	422,330	425,768	399,672	100.8%	94.6%
安城市	178,691	184,140	187,990	190,491	187,017	101.3%	99.5%
西尾市	165,298	167,990	169,046	170,550	165,308	100.9%	97.8%
知立市	68,398	70,501	72,193	72,870	71,942	100.9%	99.7%
高浜市	44,027	46,236	46,106	49,453	51,926	107.3%	112.6%
みよし市	60,098	61,810	61,952	63,100	60,737	101.9%	98.0%
幸田町	37,930	39,549	42,449	41,844	43,012	98.6%	101.3%

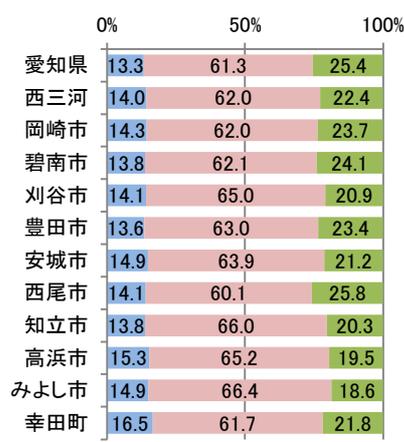
出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

■年齢三区分別人口割合

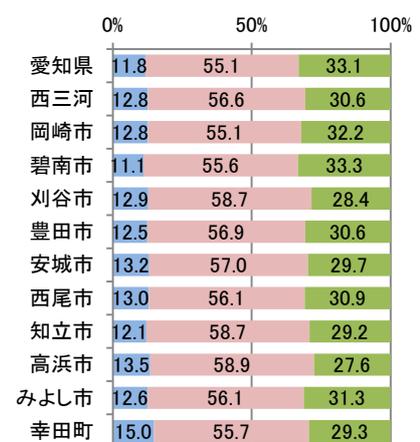
2010年



2020年



2045年



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」

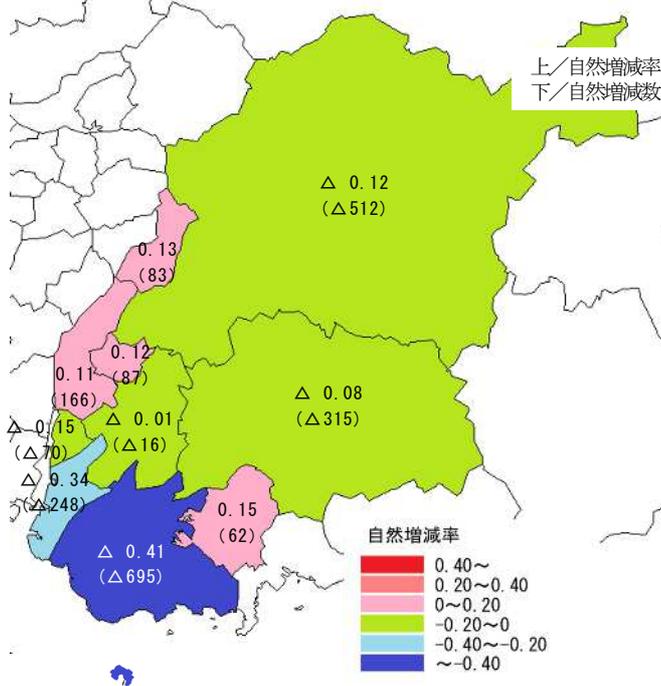
■年少 ■生産年齢 ■老年

2 自然増減

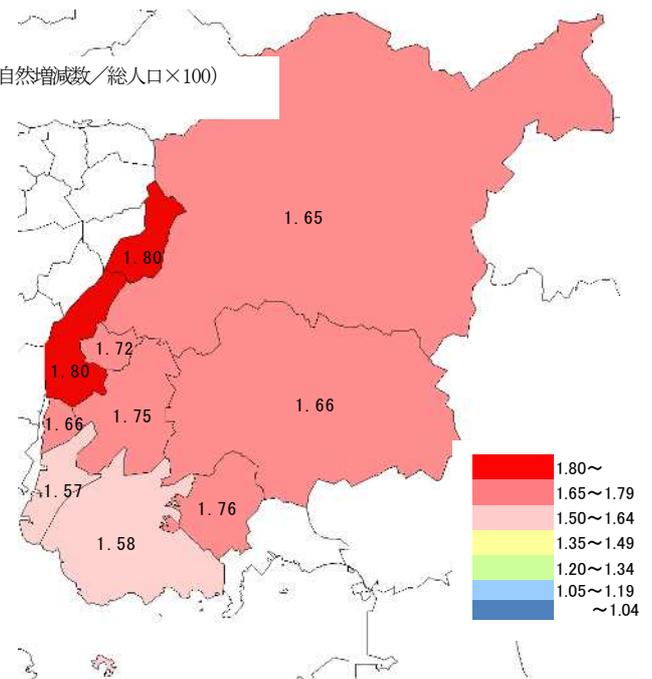
西三河地区の2021年の自然増減数は1,458人（-0.09%）の減少となっています。市町別に見ると、幸田町（+0.15%）、みよし市（+0.13%）、知立市（+0.12%）等で増加する一方で、西尾市（-0.41%）、碧南市（-0.34%）等で減少となっています。

また、合計特殊出生率（2013～2017年）を市町別に見ると、地区内全市町で県平均を上回っており、刈谷市（1.80）、みよし市（1.80）で高くなっています。

■自然増減の状況（2021年）



■合計特殊出生率（2013～2017年）



出典：厚生労働省「人口動態統計」（2021年）、愛知県「あいちの人口」（2021年）から愛知県政策企画局作成

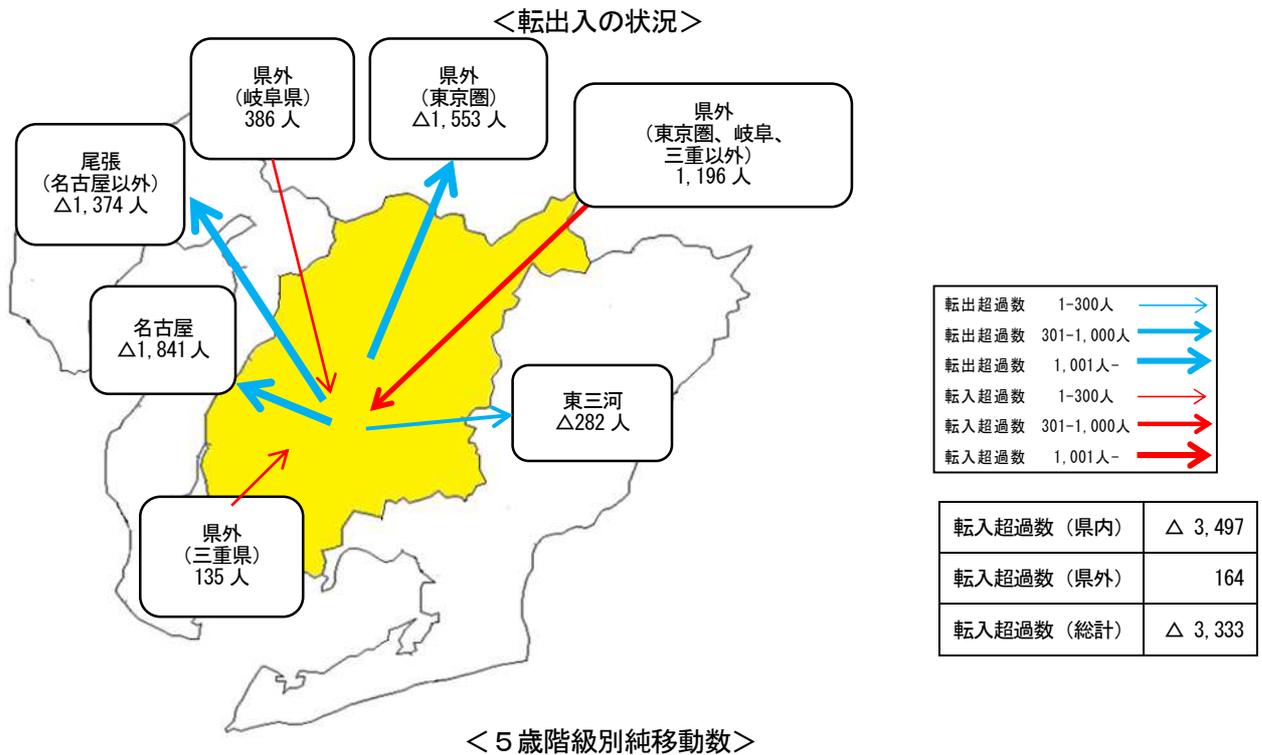
出典：厚生労働省「2013年～2017年人口動態保健所・市区町村別統計の概況」

3 転出入の状況

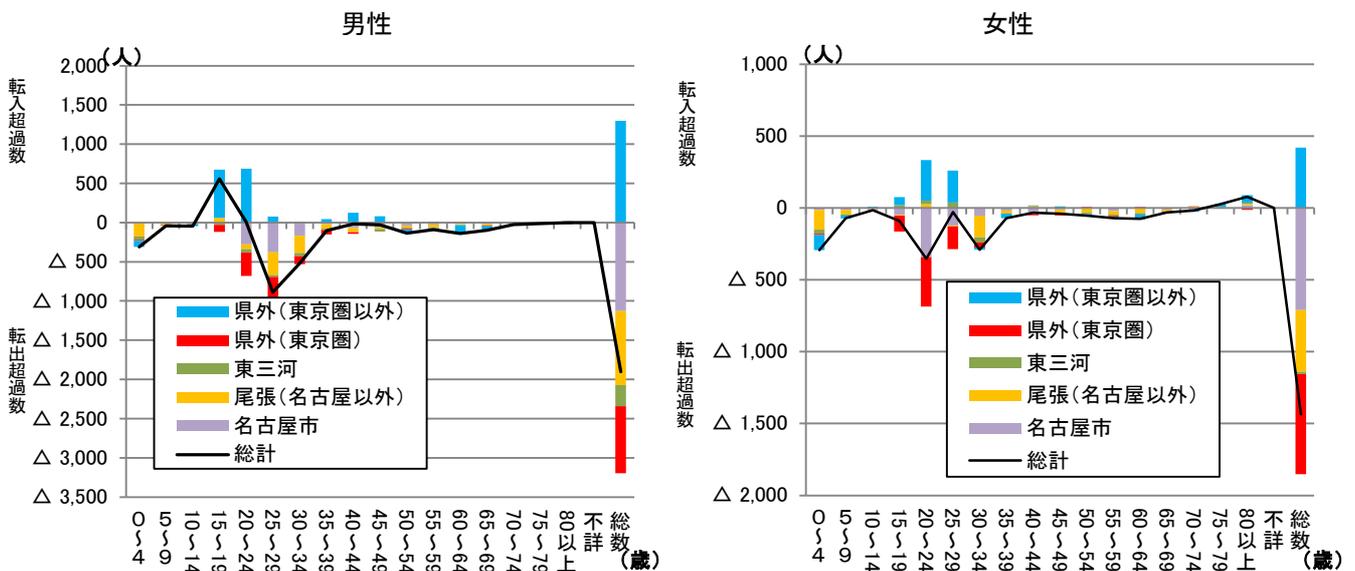
西三河地区の2021年の転出入は、3,333人の転出超過となっています。県内及び東京圏に対して転出超過となっている一方で、県外（東京圏以外）に対して転入超過となっています。

男女別に見ると、男性は15～24歳は転入超過となっていますが、25歳以降の年齢区分では転出超過となっています。女性は75歳以上の高齢者を除き、転出超過となっています。男女ともに県外（東京圏以外）からの転入が多くなっていますが、名古屋や東京圏への転出がそれ以上に多くなっています。

■転出入の状況（2021年）



＜5歳階級別純移動数＞



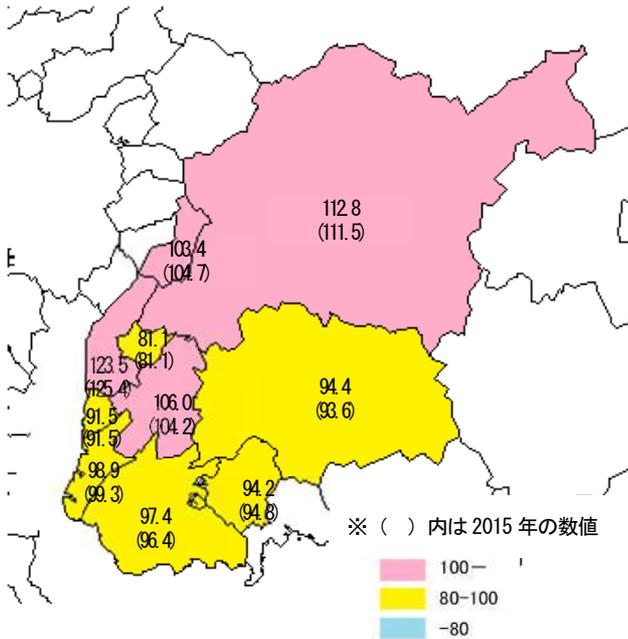
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（2021年）

4 昼夜間人口比率、就従比、通学比

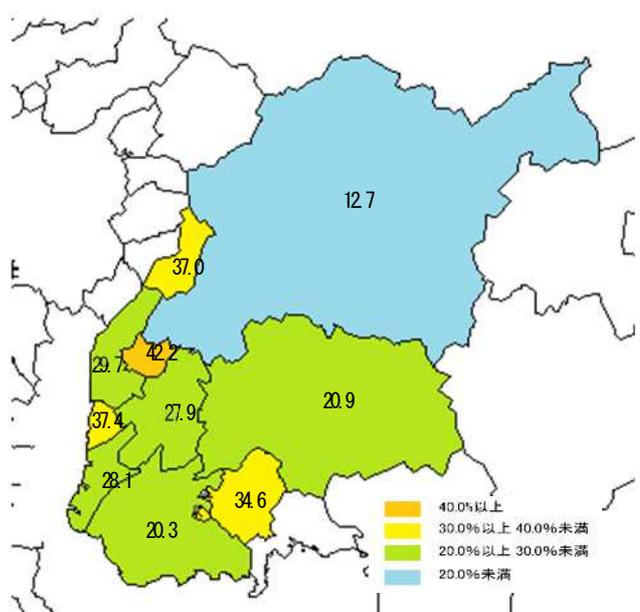
西三河地区の2020年の昼夜間人口比率*は100.3（2015年比±0ポイント）となっています。製造業が集積する当地区は、通勤面での求心力が高い地域となっています。

市町別に見ると、昼夜間人口比率は、刈谷市（123.5）、豊田市（112.8）、安城市（106.0）、みよし市（103.4）で100を上回っています。従業地・通勤地が他市区町村の割合は、知立市（42.2%）が高く、隣接の豊田市（12.7%）では低くなっています。

■昼夜間人口比率（2020年）

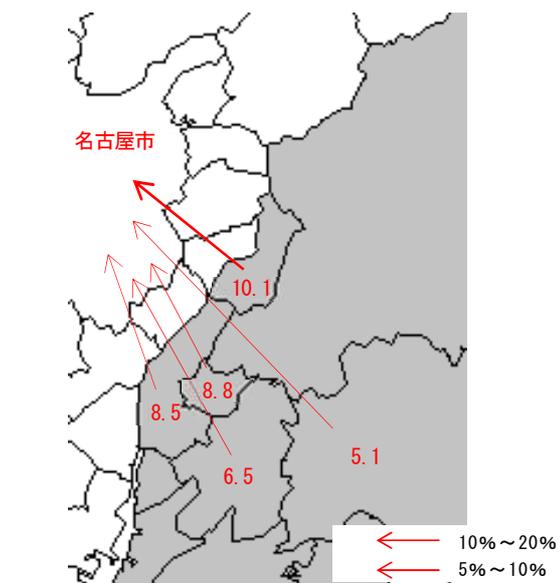


■従業地・通勤地が「他市区町村」の割合（2020年）



*昼夜間人口比率=昼間人口/夜間人口（常住人口）×100。
100を下回ると、通勤・通学人口の流出超過を示す。

■名古屋市への通勤率（2020年）



出典：総務省「国勢調査」

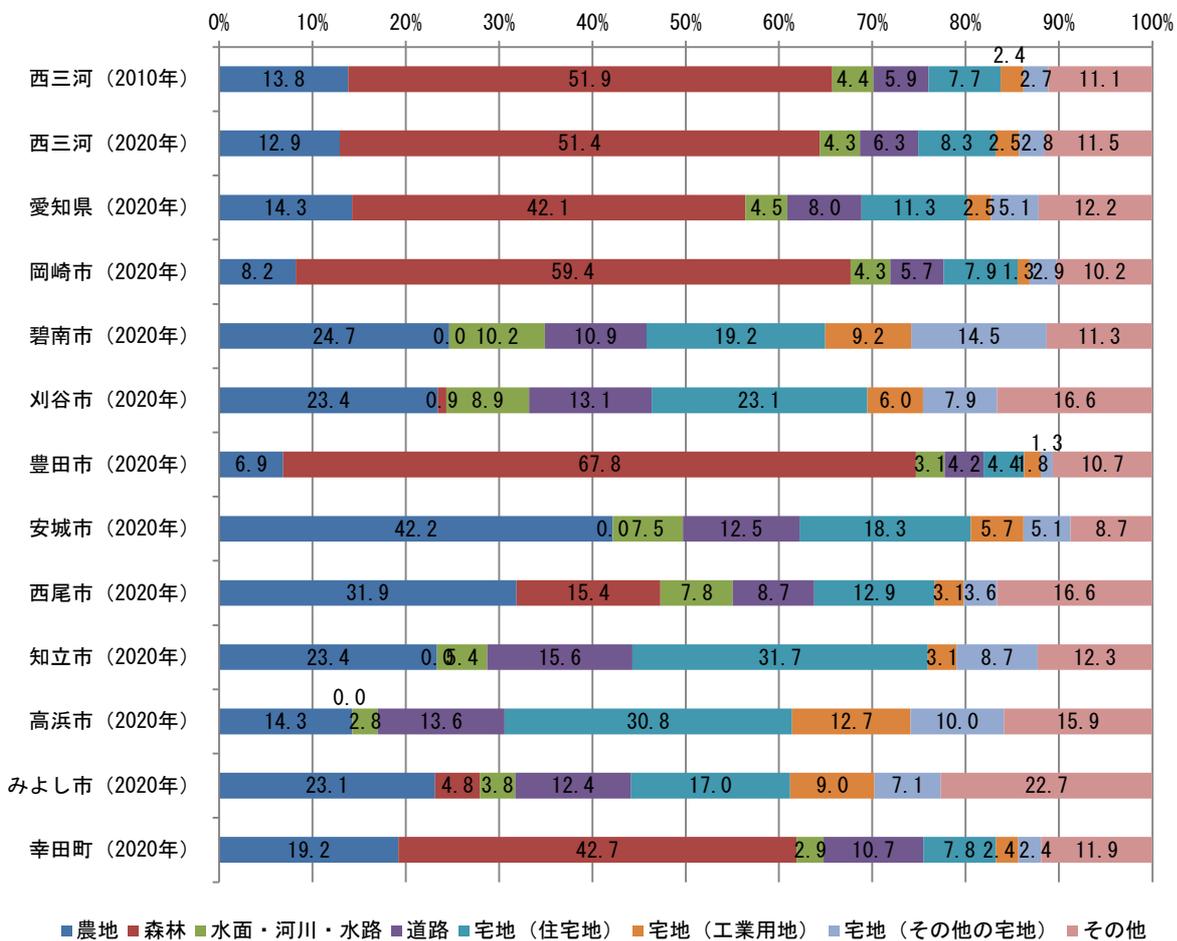
5 土地利用

西三河地区の2020年の地目別土地利用状況を見ると、森林51.4%、宅地13.6%、農地12.9%等となっています。宅地の内訳は、住宅地が8.3%、工業用地が2.5%、その他の宅地（商業・業務用地等）が2.8%となっています。

県全体と比較すると、森林（+9.3ポイント）の割合が高くなっています。また、2010年と比較すると、農地（-0.9ポイント）、森林（-0.5ポイント）が減少する一方で、住宅地（+0.6ポイント）、道路（+0.4ポイント）等の割合が増加しています。

市町別に見ると、豊田市、岡崎市は、森林の割合が高く50%を超えており、安城市と西尾市は、農地の割合が高くなっています。また、知立市では、住宅地の割合が高くなっています。

■土地利用の現況



※宅地は住宅地、工業用地、その他の宅地の合計。端数処理の関係上、合計が100にならない場合がある。

出典：愛知県「土地に関する統計年報」

6 産業

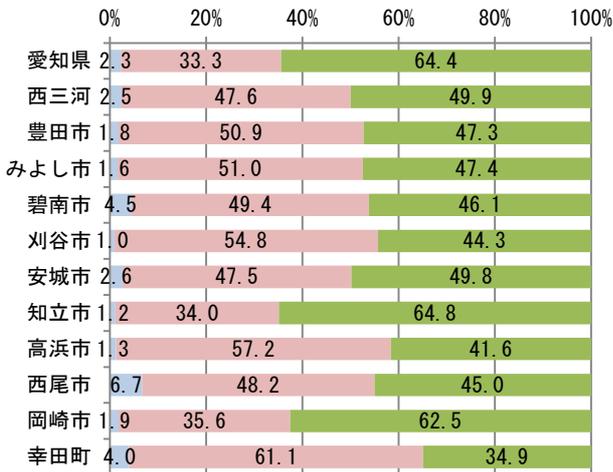
(1) 就業構造

西三河地区の2020年の就業構造を見ると、第1次産業従事者比率が2.0%（県：2.0%）、第2次産業従事者比率が43.7%（県：32.4%）、第3次産業従事者比率が54.3%（県：65.6%）であり、自動車関連産業を中心とした第2次産業の割合が高い就業構造を有しています。2010年と比較すると、第1次産業従事者比率（-0.5ポイント）、第2次産業従事者比率（-3.9ポイント）の割合が低下し、第3次産業従事者比率（+4.4ポイント）が増加しています。

市町別に見ると、第2次産業従事者比率が高い市町が多くなっていますが、2010年と比較すると、知立市、岡崎市を除く地区内市町で第2次産業従事者比率が低下しており、第3次産業へのシフトが進んでいます。

■産業別従業者割合

2010年



2020年



出典：総務省「国勢調査」

■第1次産業比率 ■第2次産業比率 ■第3次産業比率

(2) 農林水産業

2020年の農業産出額は533.2億円であり、県内シェアは18.4%となっています。農業部門別では、野菜161.0億円、米95.6億円、花き47.2億円などが多くなっています。

■農業産出額（2020年）

地区	農業産出額 (億円)	内訳（上位3位）		
		品名	金額 (億円)	品名
西三河	533.2	野菜	161.0	米
		米	95.6	花き
		花き	47.2	
岡崎市	91.4	鶏	35.6	米
		米	14.2	野菜
		野菜	12.3	
碧南市	78.6	野菜	49.8	花き
		花き	12.8	豚
		豚	10.4	
刈谷市	15.1	米	6.5	野菜
		野菜	3.9	果実
		果実	1.8	
豊田市	84.8	米	23.7	野菜
		野菜	21.3	果実
		果実	12.3	
安城市	72.0	野菜	25.4	米
		米	18.5	果実
		果実	4.9	

地区	農業産出額 (億円)	内訳（上位3位）		
		品名	金額 (億円)	品名
西尾市	134.4	野菜	30.7	花き
		花き	26.4	豚
		豚	21.8	
知立市	2.5	米	1.8	麦類
		麦類	0.2	豆類
		豆類	0.2	
高浜市	2.7	米	1.1	鶏
		鶏	0.9	野菜
		野菜	0.5	
みよし市	15.9	果実	7.8	米
		米	2.7	野菜
		野菜	2.6	
幸田町	35.8	野菜	14.4	果実
		果実	5.6	米
		米	4.8	

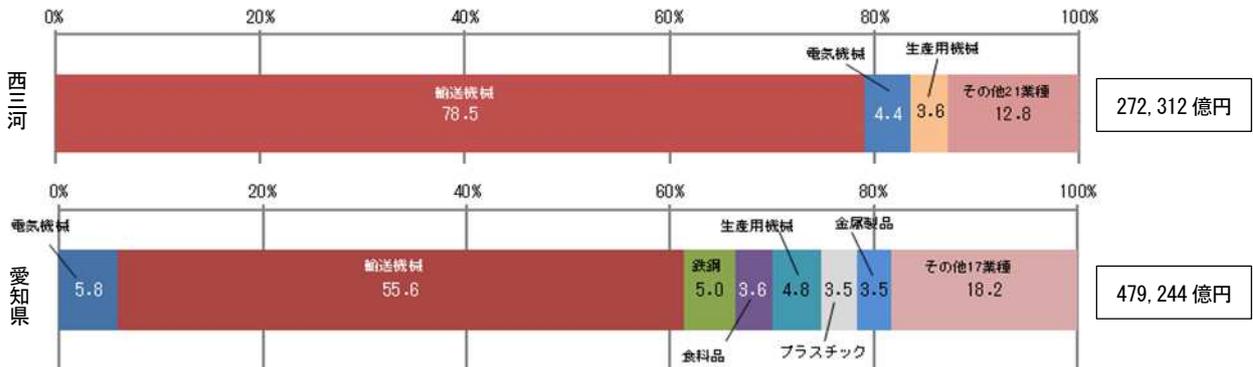
出典：農林水産省「令和2年市町村別農業産出額（推計）
（農林業センサス結果等を活用した市町村別農業産出額の推計結果）」

(3) 製造業

西三河地区の2019年の製造品出荷額等は27兆2,312億円であり、県内シェアは56.8%となっています。産業中分類別の構成比を見ると、輸送機械が78.5%、電気機械が4.4%、生産用機械が3.6%となっています。輸送機械については、豊田市が製造品出荷額等で全国第1位、岡崎市が第6位、安城市が第7位、西尾市が9位（2019年実績）となっています。

市町別に見ると、豊田市が15兆1,717億円で最も多く、次いで、岡崎市が2兆5,764億円、安城市が2兆5,196億円となっています。

■製造品出荷額等の産業中分類別構成比（2019年）



出典：経済産業省「工業統計調査」（2020年）

■製造品出荷額等（輸送用機械器具製造業）の全国上位10市区町村（2019年実績）

市区町村名	輸送用機械器具製造業（億円）	全国シェア
1 豊田市	142,675	21.9%
2 太田市	22,028	3.4%
3 広島市	18,915	2.9%
4 広島市南区	17,135	2.6%
5 田原市	16,524	2.5%
6 岡崎市	15,292	2.3%
7 安城市	15,217	2.3%
8 いなべ市	14,310	2.2%
9 西尾市	13,742	2.1%
10 宮若市	12,118	1.9%

西三河	213,632	32.8%
-----	---------	-------

出典：経済産業省「工業統計調査結果」（2020年）

■市町別製造品出荷額等（2019年）

	製造品出荷額等（億円）	従業者数（人）	事業所数（事業所）
愛知県	479,244	848,565	15,063
西三河	272,312	361,525	3,655
岡崎市	25,764	47,044	664
碧南市	9,607	16,805	316
刈谷市	15,850	49,764	334
豊田市	151,717	112,478	789
安城市	25,196	49,526	452
西尾市	17,461	40,500	571
知立市	1,479	5,313	119
高浜市	5,361	11,833	151
みよし市	10,836	16,206	174
幸田町	9,042	12,056	85

出典：経済産業省「工業統計調査」（2020年）

(4) 商業

西三河地区の2015年の小売業販売額は1兆5,984億円であり、県内シェアは18.9%となっています。また、顧客吸引力指数^{*}は0.88となっています。

市町別に見ると、小売業販売額は、岡崎市が4,212億円、次いで豊田市が3,782億円と高くなっています。また、顧客吸引力指数は、みよし市（1.07）、安城市（1.04）が1.00を超えています。

■小売業販売額（2015年）

	小売業販売額（億円）	顧客吸引力指数
西三河	15,984	0.88
豊田市	3,782	0.79
みよし市	748	1.07
碧南市	631	0.78
刈谷市	1,569	0.92
安城市	2,172	1.04
知立市	617	0.77
高浜市	331	0.63
西尾市	1,583	0.83
岡崎市	4,212	0.97
幸田町	341	0.75

^{*}顧客吸引力指数：各市町村の人口1人当たりの小売業販売額を県の1人当たりの小売業販売額で除したものの、指数が1.00以上の場合は、買物客を外部から引き付け、1.00未満の場合は、外部に流出していることを示す。

出典：経済産業省「商業統計」（2016年）、愛知県「あいちの人口」（2016年）から愛知県政策企画局作成

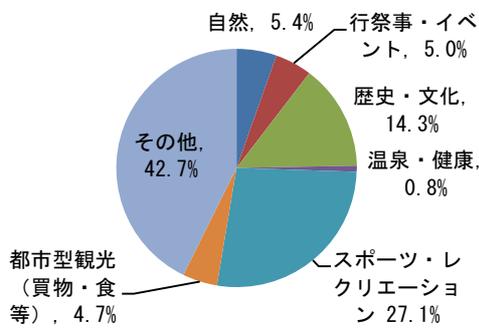
7 観光

西三河地区の2021年の観光資源利用者数を区分別に見ると、刈谷ハイウェイオアシスなどが含まれる「その他」が42.7%で最も割合が多く、次いで「スポーツ・レクリエーション」が27.1%、「歴史・文化」が14.3%となっています。利用者数上位の観光資源は、刈谷ハイウェイオアシス（年間6,160,000人：刈谷市）、NEOPASA岡崎（年間4,066,321人：岡崎市）、鞍ヶ池公園（年間1,417,900人：豊田市）などとなっています。

また、当地区は、岡崎城や知立の山車文楽とからくり、足助の町並みなどの歴史・文化観光資源、三州瓦や白醤油・八丁味噌などの地場産業を生かした産業観光資源、香嵐溪や佐久島などの豊かな自然など、多様な観光資源を有しています。

■観光レクリエーション利用者統計（2021年）

＜施設等区分別利用者数の割合＞



＜観光資源（利用者数上位10位）＞（人）

順位	観光資源名	市町村	利用者数
1	刈谷ハイウェイオアシス	刈谷市	6,160,000
2	NEOPASA岡崎	岡崎市	4,066,321
3	鞍ヶ池公園	豊田市	1,417,900
4	刈谷市交通児童遊園	刈谷市	1,213,633
5	豊田スタジアム	豊田市	1,155,070
6	道の駅藤川宿	岡崎市	1,150,285
7	明石公園	碧南市	1,128,734
8	あおいパーク	碧南市	1,058,593
9	三河三弘法・遍照院	知立市	861,800
10	西尾市憩の農園	西尾市	720,114

出典：愛知県「観光レクリエーション利用者統計」（2021年）

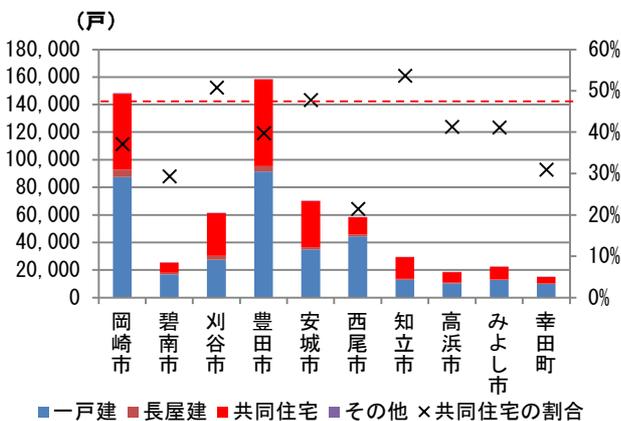
※観光庁「観光入込客統計に関する共通基準」と同様の区分

8 住宅

西三河地区の2018年の住宅総数（居住世帯なしの住宅を除く）を市町別に見ると、豊田市が158,590戸で最も多く、次いで岡崎市が148,420戸、安城市が70,130戸となっています。また、共同住宅の住宅総数に占める割合は、知立市（53.7%）、刈谷市（50.8%）などで県平均（45.8%）を上回っています。

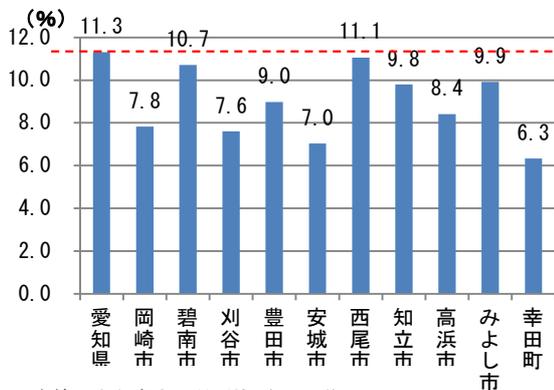
空き家率は地区内全市町で県平均（11.3%）を下回っています。

■住宅総数（2018年）



※赤線は共同住宅の割合の県平均（45.8%）

■空き家率（2018年）



※赤線は空き家率の県平均（11.3%）

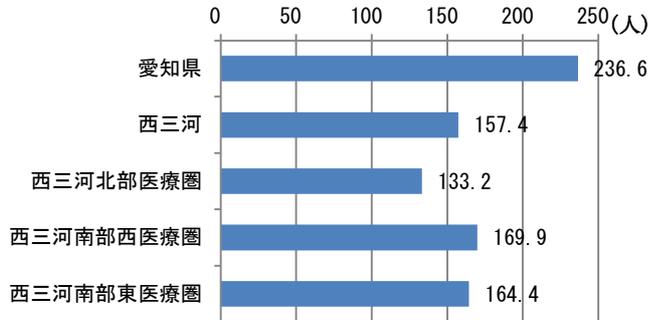
※住宅・土地統計調査では、人口15,000人未満の町・村の調査結果が公表されていない。

出典：総務省「住宅・土地統計調査」（2018年）

9 医療・福祉

西三河地区の2020年の人口10万人当たりの医師数は157.4人であり、県平均（236.6人）を下回っています。二次医療圏別に見ると、西三河北部医療圏133.2人、西三河南部西医療圏169.9人、西三河南部東医療圏164.4人となっています。

■人口10万人当たり医師数（2020年）

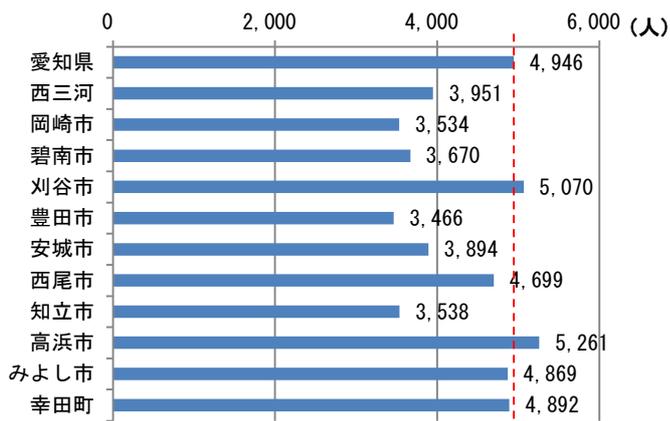


出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」（2020年）、
総務省「国勢調査」（2020年）から愛知県政策企画局作成

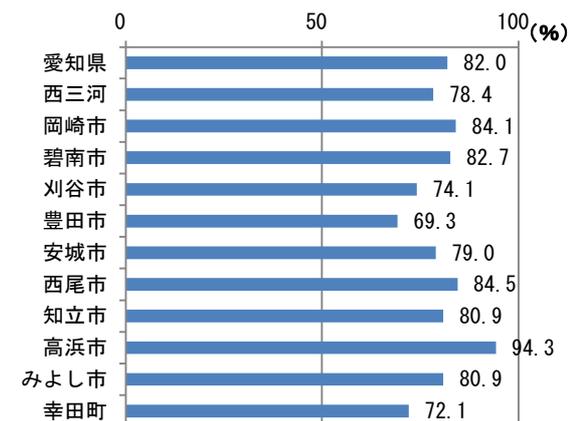
高齢者向け施設について、2020年の65歳以上人口10万人当たりの定員数は3,951人となっており、県平均（4,946人）を下回っています。市町別に見ると、高浜市、刈谷市が県平均を上回る一方、豊田市、岡崎市などでは大きく下回っています。

また、2022年の保育所の定員充足率（利用児童数÷定員）は78.4%となっており、県平均（82.0%）を大きく下回っていますが、高浜市では94.3%と高くなっています。

■高齢者向け施設定員数（65歳以上人口10万人当たり）（2020年）



■保育所充足率（2022年）



※赤線は県平均（4,946人/10万人）

※高齢者向け施設定員数：養護老人ホーム（一般）、（盲）、軽費老人ホーム（A型）、（B型）、（ケアハウス）、有料老人ホーム、
介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設の定員数

出典：厚生労働省「保育所等利用待機児童数調査」（2022年）、「社会福祉施設等調査」（2020年）、「介護サービス施設・事業所調査」（2020年）、総務省「国勢調査」（2020年）から愛知県政策企画局作成

【西三河地区における県の主な取組】

当地区は、自動車産業を中心とする世界的なモノづくり産業の拠点であるとともに、産業観光施設や歴史文化を有しており、県としては、モノづくりの中枢性を高めるための研究開発機能の集積や、地域の資源を生かした魅力の創造・発信に取り組んでいます。一方、山間部や離島を抱える地域でもあり、暮らしを支える環境整備や地域資源を生かした魅力発信など、山間部や離島地域の振興にも取り組んでいます。

（モノづくりの中枢性の強化）

トヨタ自動車(株)が整備する研究開発施設及びテストコースの用地として造成した豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業については、2007年4月から2021年3月にかけて実施しました。現在、自動車産業のさらなる発展をめざし、西尾次世代産業地区用地造成事業を推進するなど、最先端の研究開発・生産機能の集積・強化にも取り組んでいます。

また、あいち産業科学技術総合センターやあいちシンクロトロン光センターからなる知の拠点あいちでは、モノづくり産業の技術革新につながる研究開発を推進するため、産学行政の連携による重点研究開発プロジェクトを実施しています。

さらに、次世代自動車関連産業の育成・振興を図るため、水素ステーションの整備促進、次世代自動車の高度部材の開発支援に取り組んでいます。



豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業
（東側イメージパース）



知の拠点あいちにおける研究開発の推進
（あいちシンクロトロン光センター）

（農林水産業の振興）

当地区では、南部地域を中心とした大規模な土地利用型の農業や山間部における林業、三河湾における水産業が展開されており、新技術の導入や農地集積、干潟・浅場、貝類増殖場の造成などを通じた生産性の向上を図るとともに、農起業支援センター（西三河、豊田加茂）が、県内の就農希望者の一次相談窓口として岡崎市の県立農業大学校に設置した農起業支援ステーションと連携して、農業の担い手の確保に取り組んでいます。

また、地域団体商標に登録されている「一色産うなぎ」や「西尾の抹茶」をはじめ、特産品のブランド化を進めるとともに、付加価値の向上を図っています。



干潟・浅場造成



特産品のブランド化
（左：一色産うなぎ／右：西尾の抹茶）

（地域の魅力の創造・発信）

自動車を中心とするモノづくり産業や、醸造業、窯業といった地場産業、和紙などの郷土工芸品等を生かした産業観光や、岡崎城、西尾城などの城郭・城址を活用した「お城観光」、東海道や飯田街道といった歴史街道を活用した「街道観光」など、歴史や産業等を活かした観光振興を図っています。

また、徳川家康の生誕地である当地では、2023年の大河ドラマ「どうする家康」の放送を契機に、岡崎城に大河ドラマ館がオープンするなど、盛り上がりを見せています。本県、県内市町、観光団体等で構成する「愛知県大河ドラマ『どうする家康』観光推進協議会」においては、三河地区を含む県内各地の徳川家康ゆかりの地や武将観光施設を周遊するデジタルスタンプラリー「あいち家康戦国絵巻ラリー」を開催するなどキャンペーンを展開しています。



愛知の街道「御宿印めぐり」キャンペーン



デジタルスタンプラリー「あいち家康戦国絵巻ラリー」

（障害のある人の療育・医療支援、特別支援学校の設置）

2016年4月に新築移転した三河青い鳥医療療育センターを地域の拠点施設として、重症心身障害児者及び肢体不自由児に対する医療・療育支援の充実を図っています。

また、安城特別支援学校の教室不足の解消と岡崎特別支援学校への長時間通学の緩和を図るため、知的障害及び肢体不自由の両方に対応するにしお特別支援学校を2022年4月に開校しました。また、学習環境の改善等を図るため、岡崎特別支援学校の県立農業大学校敷地内への移転に向けた整備を進めています。さらに、豊田市内への新設校設置に向けて、豊田市との協議を進めています。



三河青い鳥医療療育センター



にしお特別支援学校

（産業や暮らしを支える基盤整備）

当地区に広がる県内有数の生産拠点と重要港湾や高規格道路を結ぶ東西軸となる都市計画道路の名古屋岡崎線や衣浦岡崎線、南北軸となる衣浦豊田道路、さらには、トヨタテクニカルセンター下山へのアクセス道路となる国道301号の整備や、岡崎市阿知和地区に接続する岡崎阿知和スマートインターチェンジ（仮称）の整備を進めています。

また、道路交通の円滑化と分断された市街地の一体化による都市の活性化を図るため、知立駅付近連続立体交差事業を進めており、2027年度に予定されているリニア開業効果をモノづくり拠点である当地区に波及させるため、名古屋駅からの鉄道による40分交通圏の拡大をめざし、名鉄三河線の複線化などによる名古屋駅－豊田市中心部駅間の所要時間の短縮を図っていきます。

さらに、最先端の技術を持つトヨタグループ6社の本社・開発拠点が集積するとともに、JR刈谷駅の改良工事や刈谷駅周辺の再開発が進み、地域の中核的な病院である刈谷豊田総合病院が立地するなど、スマートシティに取り組む条件や要素を備えている刈谷市において、企業と連携したスマートシティ化を進めるための研究会を県と刈谷市の共同で開催し、実証実験等のプロジェクトについて検討しました。これらのプロジェクトのアイデアのうち、早期に実現可能なものから関係者と協議を進めていることとしています。

加えて、西尾海岸、一色海岸など海岸堤防や矢作古川、矢崎川の河川堤防の耐震化を進めるとともに、西尾市行用町において広域的な防災活動拠点の整備を推進しています。



名古屋岡崎線（刈谷工区）



知立駅付近連続立体交差事業
知立駅周辺イメージパース

（山間地域・離島地域の振興）

岡崎市東部や豊田市北東部の山間部においては、高齢化や人口流出が進んでおり、へき地保健医療対策や生活交通の確保、情報インフラの整備促進、山間地域の暮らしや魅力の情報発信などにより、テレワークの普及・拡大などの動きも捉えながら地域外からの移住・定住の促進を図っています。

また、人口減少、高齢化の進む佐久島においては、イベントやSNS等を活用した離島の魅力発信や、島に関心を持ち、深く関わり続けてもらえる島外人材と連携した取組など、関係人口を持続化・深化するための取組を推進しています。



オンライン交流体験イベント（東京都渋谷区）